

令和3年度 奈良県食と農の振興会議 議事概要

1. 開催日時

令和3年10月25日（月）午後1時30分～3時30分

2. 開催場所

奈良市法連町757-2 ホテルリガーレ春日野 畝傍の間

3. 出席者

委員：池下委員、小川委員、清原委員、小泉委員
菅谷委員、竹西委員、谷口委員、堂土委員
増井委員、松田委員、村本委員、山本委員
（出席12名）

県：永田農業政策顧問
乾食と農の振興部長、大峯食と農の振興部次長
原食と農の振興部次長、岡野食と農の振興部次長
伊藤中央卸売市場再整備推進室長
田中農業水産振興課長、大山農業経済課長、
阪口畜産課長、田中担い手・農地マネジメント課長、
長谷川農村振興課長、他担当職員

4. 議題

- (1) 奈良県食と農の各分野における主な施策及び
奈良新『都』づくり戦略2021について
- (2) 奈良県豊かな食と農の振興計画について
- (3) 奈良県酪農・肉用牛生産近代化計画について

○配布資料

- ・令和3年度 奈良県食と農の振興会議資料

5. 公開・非公開の別

公開（傍聴 0人）

議事内容

- (1) 奈良県食と農の各分野における主な施策及び奈良新『都』づくり戦略2021について各責任課・室長より説明
- (2) 奈良県豊かな食と農の振興計画について原次長より説明
- (3) 奈良県酪農・肉用牛生産近代化計画について阪口課長より説明

委員の意見概要

【永田顧問】

- ・耕地整備をした農地も、不作付け農地に変わってきており、農地としての価値が無くなってきている。
- ・併せて、米価の下落により、地域で農地を維持していく気持ちが、弱ってきており、スマート農業などの取組などいろいろな知恵が必要になっている。

【小泉委員】

- ・農業者人口の減少や高齢化が進む中、若い世代が農業に魅力を持つような施策を積極的にしなければ農業は衰退をしていくと思う。
- ・奈良県豊かな食と農の振興計画の子どもへの農業体験機会の提供等の項目にあるように農業をしながら楽しい体験を子どもに身につけさせていくことが必要と思う。

【竹西委員】

- ・奈良県でリモートワークしながらの農業や、新しい有機的生産など一つのことに特化し、農業に新規参入したい若い方の心をつかむようなことができないかと思う。
- ・奈良県は都市近郊の地の利があり、観光を活用し、生業と農業とマッチングして、新しいアイデアをもった若い農業者を支援できるようなシステムはできないかと思う。

【清原委員】

- ・河合町では、農地の荒廃農地対策として地元の農業者組織と協力し、黒豆の栽培に取り組み始めた。
- ・今年度の試験販売では好調であったため、今後、さまざまな取組を検討しており、県からのご支援をお願いしたい。

【堂土委員】

- ・県内で開業しているNAFICの卒業生には、生産者や良い野菜を探している方もいるので、これらをつなげる体制が整備ができれば良いと思う。
- ・首都圏に向けての一定の流通がある一方、県内の流通は送料や輸送方法などで課題がある。県内の流通がうまくいけば、生産者とレストランの繋がりとして大きな動きになってくると思う。

【山本委員】

- ・中央卸売市場での廃棄される予定の食品について、食品ロスの視点でフードバンク奈良や家畜の餌、肥料などとしての活用を施設の整備や仕組みとして検討してほしい。

【菅谷委員】

- ・特定農業振興ゾーンで高収益な作物を作っていくには、排水の条件の整備や用水の自動化などが必要になると思う。
- ・すべての農地を高収益化するのは不可能なので、土地利用型作物の部分は、少ない農家で省力化して管理できるよう基盤整備についても常に念頭に置いてほしい。
- ・耕作放棄地対策は、組織化や担い手への集約だけでなく、用水等の改善、農地の区画整理などが必要になってくると思う。
- ・防災重点ため池について、市町村等と連携しながら改修に地元負担がかからない制度を積極的に活用し、対策を進めてほしい。

【谷口委員】

- ・地元でとれた野菜を置いてある店がまわりになく、手に入るよういろいろな工夫をお願いしたい。
- ・県産の乳製品の県内での流通も併せてお願いしたい。

【松田委員】

- ・ 特定農業振興ゾーンの設定を検討している平群町の取組品目について教えてほしい。
⇒ ・ 地元の意向を受けてイチゴ・小ギクでの設定で進めている。
- ・ 奈良県枝物輸出促進協議会の構成員について教えてほしい。
⇒ ・ J Aならけん西吉野花木部会と農業法人、県が構成員の協議会となっている。

【村本委員】

- ・ J Aならけんでは、地産地消の取組として、奈良と橿原に直売所を設置している。
- ・ 集落営農組織への支援では、構成員の高齢化が進む中、農地のマッチングや集約をスピードアップして進めていく必要あると感じている。

【池下委員】

- ・ 酪農家の方から直接牛乳を買いたい、県内産の牛乳・乳製品が欲しいと言われる方は多いが、乳製品の流通には殺菌等いろいろな制約があり、個人で売るのはなかなか難しいと思う。公共牧場に県内産の加工場の設置等が出来れば牛乳の県内産も流通させられるのではと思う。
- ・ 農業者も流通や生産を考えているので、県でも農業者が増えていくような案を作って頂きたいと思う。

【増井会長】

- ・ 米価下落の中、おいしい農産物を作るためのコスト削減には農地の集約化が必要と思う。
- ・ 集約化について農業会議や農業委員会も一生懸命に取り組んでいるがなかなか進まない現状である。
- ・ 集約化に向けた集落での話し合いでは、特定農業振興ゾーンの設定などメリット措置などの説明が必要と思う。